

「巻頭特集」 伊賀市役所新庁舎

# 伊賀のまちづくりを担う行政機関の核として

伊賀市四十九町に移転、新築された市役所の新庁舎。その外観は城下町の景観と調和するよう黒を基調としており、松尾芭蕉の真筆による「伊賀市役所」の看板が来庁者を歓迎する。今年1月4日に開庁式が執り行われ、午前8時半、業務を開始した。

## 執務機能を集約して 市民サービスの向上を

旧庁舎(伊賀市南庁舎)は昭和39年12月、上野市庁舎として建設された。設計はフランスの名高い建築家ル・コルビュジエに師事した坂倉準三であった。平成16年11月に上野市・阿山郡伊賀町・島ヶ原村・阿山町・大山田村・名賀郡青山町の6市町村が合併し、伊賀市が誕生する。旧上野市役所が伊賀市本庁舎となった。

近代モダンリズム建築として高い評価を受けていた庁舎も、築50年を経て、老朽化が進み、耐震基準も満たしておらず、建て替えが決まる。しかし建て替えを巡り、移転案と現在地での建て替え案とで対立が起こり、移転の是非を問う住民投票が行われた。投票者数が投票資格者の2分の1に満たなかったため、住民投票は不成立となり、結論には至らなかったが、市議会において平成26年9月、移転、新築が決定する。

平成29年3月に着工、30年11月に竣工し、翌12月22日には竣工式と市民向けの内覧会が開かれた。5階建

で、延べ床面積約1万4300平方メートル、建設費は約51億4千万円だった。

移転先となったのは市内四十九町の、三重県伊賀庁舎隣接地で、周辺には伊賀警察署やハローワークなどの公共施設も点在する行政ゾーン。また、これまで本庁と支所(旧町村役場)に各部署が分散しており、市民にとって不便が続いていたが、執務機能が新庁舎に集約されることになり、市民サービスの向上が期待された。

## 分かりやすい配置で 来庁者の利便性を図る

訪れた人たちの目をひくのが、建物中央を1階から4階まで貫く吹き抜け。その周囲を各課が口の字型に並ぶ。戸籍住民課や市民生活課、保



伊賀市財務部管財課庁舎整備推進係 森口浩司係長

場合でも、3日間は災害復旧活動が継続できるよう、自家発電機や水タンクなどを整備している。

森口さんによれば「南海トラフ地震によって沿岸部に被害が出た時は、県内陸部の防災拠点として、司令塔的な役割を担うことになる。隣接する県伊賀庁舎との連携を進めてほしい」と鈴木英敏三重県知事が竣工式典で挨拶したそうだ。

県内陸部の防災拠点として司令塔的な役割を担うなど 市民に開かれた庁舎を目指していきたいと思えます

ナーとして利用できる。そのエントランスの天井や吹き抜け部分には、伊賀市産木材が使われ、やや無機質な庁舎に温かみを添えている。

「職員による庁舎周囲のクリーン活動を定期的実施する計画ですし、地域の小学校などから見学の問い合わせも多く来ていて、順次、ご覧いただいています。先日の開庁記念コンサートのような、1階ロビーを使ったイベント開催なども視野に入れている。市民に開かれた庁舎を目指していきたいと思えます」と森口さんは今後の展望を話す。



芭蕉の書簡などから転載した真筆の「伊賀市」(庁舎北側上層階)の看板。「伊賀市役所」の看板は南側駐車場入り口にある

育幼稚園課など、市民が多く利用する窓口を1、2階に配置し、エスカレーターが結んでいる。

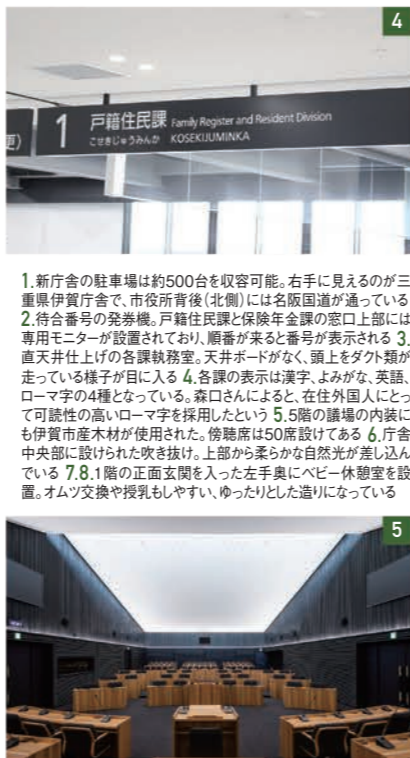
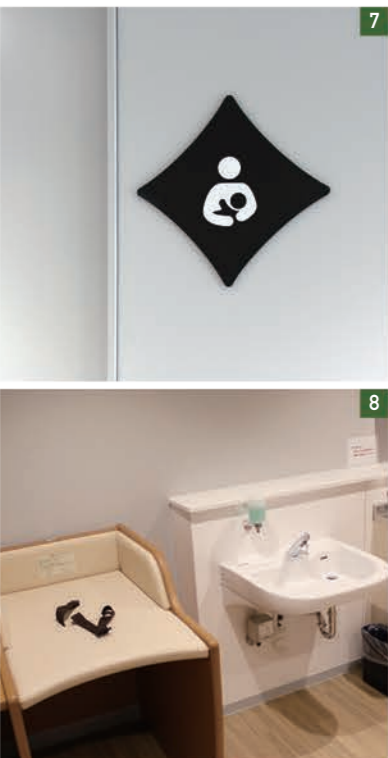
吹き抜け部分も無駄にせず、執務室などを設けたほうが良いように思われるが「吹き抜け上部には自動開閉できるトップライト(天窗)が設けられていて、各階に自然光が取り入れられますので、庁舎内が明るくなります。夏には風の通り道となって換気を促すことから、冷房にあまり頼らないで済みます。さらには視認性に優れているため庁舎内が一望でき、各課の配置がわかりやすく、職員からは来庁者の動きなども把握しやすくなっています」と伊賀市財務部管財課の森口浩司さんは利点を並べる。

新庁舎では窓口の混雑緩和に向け、待合番号の発券機を設置した。特に市民利用が多い戸籍住民課と保険年金課の限定であるが、待ち人数をパソコンやスマートフォンで確認でき、混雑状況を見ての来庁が可能となる。各課に間仕切りがないのも特徴的だ。デスク類は統一規格で、今後の社会変化による組織変更にも柔軟に対



(上)2月3日に開かれた開庁記念コンサート。新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーと地元高校生との共演を、多くの市民が楽しんだ(下)1階エントランスの天井には、みえ森と緑の県民税を活用して伊賀市産木材を使用した

information  
**伊賀市役所** 伊賀市四十九町3184 TEL0595-22-9611(代表)  
 開庁時間/土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)を除く、8時30分~17時15分 ※開庁日の木曜日は証明窓口(戸籍住民課、課税課、収税課)を19時30分まで利用可



1. 新庁舎の駐車場は約500台を収容可能。右手に見えるのが三重県伊賀庁舎で、市役所背後(北側)には名阪国道が通っている  
 2. 待合番号の発券機。戸籍住民課と保険年金課の窓口上部には専用モニターが設置されており、順番が来ると番号が表示される  
 3. 直天井仕上げの各課執務室。天井ボードがなく、頭上をダクト類が走っている様子が目に入る  
 4. 各課の表示は漢字、よみがな、英語、ローマ字の4種となっている。森口さんによると、在住外国人にとって可読性の高いローマ字を採用したという  
 5. 5階の議場の内装にも伊賀市産木材が使用された。傍聴席は50席設けられている  
 6. 庁舎中央部に設けられた吹き抜け。上部から柔らかな自然光が差し込んでいる  
 7. 8. 1階の正面玄関を入った左手奥にベビー休憩室を設置。オムツ交換や授乳もしやすい、ゆったりとした造りになっている